観光ビッグデータ収集 釧路の官民 loTなど使い 活用へ実証実験

日本経済新聞 地域経済

2018年2月28日 2:19 [有料会員限定]

北海道釧路市の官民でつくる釧路市IoT推進ラボは、ビッグデータの収集・活用に乗り出す。あらゆるものがネットにつながるIoTと、少ない電力で広域な無線通信ができるLPWAの技術を活用、地域を訪れる観光客の動きや河川水位などのデータを効率的に収集・分析し、おもてなし向上や防災・街づくり施策に生かしてもらう。

18年度に実証実験を実施。LPWAの複数の規格の比較、データ分析の方法、LPWAが活用できそうな分野の 洗い出しなど基礎的な環境を整える。19年度以降はデータを収集するための本格的なネットワーク構築や 分析体制を整え、民間企業によるLPWAを活用したビジネスにもつなげる考え。実験費用は200万円程度を 見込む。

実験は当面、観光を想定、釧路市で展開されている4つの事業と連携する。具体的には外国人観光客向けの「釧路阿寒摩周おもてなしナビアプリ」、観光客の移動や買い物のストレスを減らす「IoT活用おもてなし実証事業」、釧路市のフリーWi—Fiの設置、地元バス会社が導入するバスロケアプリと組む方向で検討している。

例えば釧路阿寒摩周おもてなしナビアプリは、訪日客に全地球測位システム(GPS)で最寄りの観光施設の情報や道路情報などを伝える。同アプリと連携し、位置情報などのデータを集めて活用法を研究する。 行き先に応じた最適なバス路線などをスマホで知らせるバスロケアプリからは、乗客の情報を集める。

実験ではLPWAの活用を試みる。市街地の高台などに基地局を確保。観光地に向かうバスなどに受信機を付け、観光客を乗せたバスの移動状況などのデータを集める。携帯電話の通信回線を使う場合と比べたコスト比較などもする。レンタカーや観光客からの情報収集も検討する。

LPWAの実験では電波の届く範囲、観光客の情報をどの程度集められるか、高速移動にどこまで対応できるか、使い方によってどの規格が適当かなどを検証する。

データは地元のIT(情報技術)企業のクラウドサーバーなどに蓄積。人工知能(AI)を使ったり、地元の大学と組んだりして分析する。観光客が興味を示す商品、行き先、撮影スポットなどを明確にするとともに、看板の多言語化など必要な施策も提言する。

一方、防災への活用では通信回線のない山奥などで、河川の水位などを監視センサーで調べ、無線でデータを集める。

釧路市IoT推進ラボ市は経済産業省が推進する「IoT推進ラボ」の地方版で、同市のIT関連企業や公益財団 法人釧路根室圏産業技術振興センター(釧路市)で組織する。中島秀幸代表は「通信インフラの新たな潮 流であるLPWAで地域の可能性を探るなど新技術を取り入れビジネス創出や特色ある地域づくりにつなげたい」としている。

▼LPWA Low Power Wide Areaの略。通信速度は速くないものの、低消費電力で広域をカバーする無線通信技術。IoTの普及には消費電力の大きいWi—Fi(ワイファイ)よりも適しているとされる。米セムテックなどによるLoRa、仏通信会社のSigFoxのほか、ソニーなどの規格があり、消費電力、通信距離・容量などが異なる。モバイル通信事業者の国際業界団体GSMAによると、2022年までに世界で50億台のコンピューター周辺機器などがLPWAによってネットワーク接続されるとみられている。



釧路の官民

北海道釧路市の官民でつくる釧路市I。T推進ラボは、ビッグデータの収集・活用に乗り出す。あータの収集・活用に乗り出す。あってと、少ない電力で広域な無線のTと、少ない電力で広域な無線通信ができるLPWAの技術を活用、地域を訪れる観光客の動きや用、地域を訪れる観光客の動きや防災・街づくり施策に生かしても防災・街づくり施策に生かしてもいり、

既光ビッグデー

https://r.nikkei.com/article/DGKKZO27450510X20C18A2L41000?type=my#AwAUgjlwMTAwMDQ1Mg

LOR

線通信技

夕収集

へ実証実験

活用で 分析の 数の規を実 本格的 を整え 出世 考え。実験費用は200 たビジネスにもつなげる なネットワー 万円程度を見込む。 によるLPWAを活用し 析体制を整え、 実験は当面、 釧路市で展開されて へ、民間企業 観光を想

は、Low Power Williamsを続されるとみられている。 を続されるとみられている。 を続されるとみられている。 を続されるとみられている。 を続されるとみられている。 を続されるとみられている。 を続されるとみられている。

組んだりして分析する。

つなげたい」としている。

バスロケアプリと組む方地元バス会社が導入する テム (GPS) で最寄り 訪日客に全地球測位シス 乗客の情報を集める。 用法を研究する。 もてなしナビアプリは、 実証事業」、 リ」、観光客の移動や買 周おもてなしナビアプ 光客向けの「釧路阿寒摩 などのデータを集めて活 情報などを伝える。同ア の観光施設の情報や道路 向で検討している。 バスロケアプリからは、 などをスマホで知らせる に応じた最適なバス路線 プリと連携し、位置情報 い物のストレスを減らす 「IoT活用おもてなし ―Wi―Fiの設置、 証事業」、釧路市のフ 例えば釧路阿寒摩周お 行き先

る。具体的には外国人観 いる4つの事業と連携す 集も検討する。 較などもする。 う場合と比べたコスト比 携帯電話の通信回線を使 などのデータを集める。 を乗せたバスの移動状況 台などに基地局を確保。 用を試みる。 に受信機を付け、 観光地に向かうバスなど LPWAの実験では電 や観光客からの情報収 実験ではL 市街地の高 レンタカ 観光客

積。 使ったり、 で対応できるか、 るか、高速移動にどこま 情報をどの程度集められ ウドサーバー かなどを検証する。 波の届く範囲、 によってどの規格が適当 (情報技術) 企業のクラ データは地元のIT 人工知能(AI)を 地元の大学と 観光客の などに蓄 使い方

活 観光客が興味を示す商品、行き先、撮影スポットなどを明確にするとともに、看板の多言語化などが必要な施策も提言するとという。

線でデー 地方版で、 や特色ある地域づくりに を取り入れビジネス創出 信インフラの新たな潮流 路根室圏産業技術振興セ る「IoT推進ラボ」 市は経済産業省が推進す 監視センサーで調べ、 どで、河川の水位などを は通信回線のない山奥な 可能性を探るなど新技術 であるLPWAで地域の する。中島秀幸代表は「通 ンター(釧路市)で組織 連企業や公益財団法人釧 釧路市IoT推進ラボ 方 タを集める。 防災への活用で 同市のIT関 0